

奈良県中央卸売市場運営協議会の概要

- 開催日時 令和6年5月28日（火） 午後2時00分～午後3時15分
- 場 所 奈良県中央卸売市場管理棟3階大会議室
- 出席委員 13名（順不同）
浦出委員、池田委員、小村委員、藤野委員、上田委員、寺田委員、川井委員、吉岡委員、川端委員、西川委員、吉田委員、熊田委員、高谷委員
- 欠席委員 5名（順不同）
村本委員、山口委員、川西委員、岡波委員、森田委員
- 議題 (1) 会長の選出 → 浦出委員が会長に就任
(2) 「奈良県中央卸売市場再整備の基本方針」の改正について → 承認
(3) 「市場再整備事業審査部会設置要綱」の改正について → 承認
- 議題に関する出席委員からの意見の概要
 - 整備手法が変更になっても、市場エリアと賑わいエリアについて、親和性のある一体的な整備を行う方針は変更しないことをしっかりと確認しておきたい。
 - 建物の老朽化は進んでおり、市場エリアは早急に事業着手する必要がある。
 - 市場エリアと賑わいエリアの連携が重要。そのためには両エリアの連携を見据えた全体像を考えておくことが必要。
 - 賑わいエリアの最終形・着地点を早く見えるようにしてほしい。
 - 市場エリアと賑わいエリアの一体性をどのように担保するのかというのが課題。
 - 市場エリアの建物を建てて終わりでは、奈良市場が生きる道がない。活路がなければ、市場事業者は単に高い使用料を払い続けることになり、事業経営も苦しくなる。
 - 賑わいエリアに商業施設や直販所を整備し新鮮な食の提供を行うこと、また、物流・加工施設を誘致することで、「食の拠点となる」ことに活路がある。
 - 市場の発展が農業の発展にもつながり、農家のモチベーションも上がる。
 - 消費者の食への関心が高まるとその源である農への関心が高まる。賑わいエリアの中で、食だけでなく、その先にある農の魅力も発信できると良い。
 - まちづくりの一環として、市場をパークアンドバスライドの駐車場のひとつとして利用することも考えられるのではないか。
 - 市場周辺のアkses環境の整備が重要。西名阪自動車道から直接市場に入れるようにするなど、様々な可能性を模索しながら、行政としてできることをしてもらいたい。
 - 賑わいエリアは多くの人に集まってもらうことが一番大事なので、まほろば健康パーク等の周辺施設との連携をしっかりと考える必要がある。
 - 賑わいエリア整備に一定の公的資金を投入することも検討してほしい。
 - 民間活力の活用が最優先ではなく、まずは食の流通拠点機能や食の安心・安全の確保。民間独立採算にこだわりすぎないようにしなければならない。
 - 使用料の上昇は市場事業者にとって大きな負担であり、競争上不利な要因となるため、賑わいエリアに外部の事業者ばかりが参入することにならないようにしてほしい。
 - 市場事業者も賑わいエリアの検討に積極的に参画していくことが重要である。